

「大阪 IR カジノ」環境影響評価専門委員会報告書

大阪市環境影響評価専門委員会は7月27日、「大阪・夢洲地区特定複合観光施設設置運営事業環境影響評価方法書についての検討結果報告書」(以下、報告書)を公表した。5月31日付で大阪市長から諮問があった件についての答申である。

大阪 IR カジノ事業の環境アセスメント「方法書」に対する検討結果であり、これをもとに「市長意見」が出され、準備書作成へと進むことになる。

方法書は本文77ページであり、I方法書の概要、II検討内容、III方法書に対して提出された意見書の概要、IV指摘事項から構成されている。

検討内容の1全般事項からみていく。方法書に対して住民等から28通の意見書が提出されており、当委員会ではこの内容を勘案し、審議検討を行ったと書かれている。意見書の概要をチェックしたが、それが報告書に反映されたとは思えない。

事業計画は「SDGsの達成に貢献するサステナブルなIR」を目指しているとして、私も意見書で批判した点を無批判で紹介している。そのほか複合的な影響、交通計画、緑化計画、環境影響評価項目の選定等について述べている。評価項目として地下水と地盤沈下を選定しない理由について、事業者提出資料から「問題はない」としているが、これこそ大きな問題なのではないか。別途、検討したい。

最後の指摘事項に注目したが、万博アセスでは示唆に富む指摘もあった専門委員会だが、IRに関しては拍子抜けの感じだ。事項はSDGs達成への貢献、工事中の輸送計画、緑化計画、地球環境、気象、植物。最初の2項目についてコメントしておく。

「本事業は未来社会の実験場という大阪・関西万博のコンセプトを継承し、SDGsの達成に貢献するサステナブルなIRをめざしていることから、事業計画の検討にあたっては、環境影響評価技術指針に則ることはもとより、万博で実施される革新的で持続可能な取組を参考に2030年のSDGs達成にとどまらず、その先の社会を見据えた具体的な取組内容を明らかにすること。」

IRカジノ予定地は万博会場隣接地であり、先行する万博アセスの成果が活かされる方法書のはずだが、それについての指摘はなく、事業内容や取組内容にとどまっている。住民意見が無視されたようで残念でならない。専門委員会の見識を問いたい。

「1 工事中は、万博やインフラ工事など夢洲関連事業の関係車両の走行が重複することで、交通混雑が懸念されることから、関係機関と連携し、渋滞についても予測を行うとともに、運行時間帯だけでなく、必要に応じて工事工程についても調整を行うこと。2 やむをえず建設資材の搬入を夜間に行う場合は、資材搬入車両の走行による保全施設への影響を避けるため、高速道路から此花大橋を通行する走行ルートの徹底を図ること」

こちらの指摘は具体的であるが、どう準備書に反映されるか注目したい。

(2022年8月4日)